

菅 佳夫

***若葉 (LES JEUNES FEUILLAGES)**

雪の無い暖かな冬の後、1週間も2週間も早く春がやって来て、もう少し順序よく咲いて欲しいと思う間もなく、あれも咲いた、これも咲いている、と嬉しくも慌しい驚きの中に「お花見」も無事に終わりました。花が散った今は、何処を見ても若葉が陽光に透けて香るようです。復活祭 (les Pâques) を真ん中に学校も休みが終わって、新学期に入りました。今日5月1日は「働く者の祭り“メーデー”」(Fête du Travail)で祭日、各地でデモ行進 (la manifestation) が繰り広げられ、同時に季節の「スズラン祭り」(Fête du muguet) ですから、デモの賑わいをよそに、街のあちこちでスズランの小さなブーケが売られています。ほのかな花の香に春の盛りを感じます。

***「パリは燃えているか」**

(< PARIS, BRULE-T-IL ? >)

間もなく6月6日は「ノルマンディ上陸作戦の日」(D-DAY Normandy 1944)、今年で70周年を迎えて、関係各国の要人を招いての記念行事が予定されています。上陸作戦当時の苛酷な戦況は1962年のアメリカ映画「史上最大の作戦」(The Longest Day)が日本でも上映されましたので、ご存知の方も多いかと思えます。



今でもノルマンディの海岸地帯に行きますと、ドイツ軍が造ったトーチカ (le bunker, le blockhaus) や戦車 (le char) がそのままに残され、当時の激戦が偲ばれますが、それから8月25日のパリ開放迄ドイツ軍は抵抗を止めず、各地で銃撃戦が続き、連合軍がパリに入る頃を見計らってパリを爆破し、全滅させる様にと



のヒトラー総統の命令が下って、セーヌに架かる橋という橋、ルーヴルやノートル・ダム、エッフェル塔などの建物、パリジャンの住む街角の各所には既に爆弾が仕掛けられ、ドイツ軍の総司令官の号令一つで全てが爆破される状態にありました。(le gouverneur militaire allemand se prépare, sur ordre d'Hitler, à faire sauter la capitale et il n'a qu'un ordre à donner pour que l'un de ses hommes appuie sur le détonateur et tout sera anéanti : les ponts sur la Seine, les monuments et les Parisiens (Le Louvre, la cathédrale Notre-Dame, la Tour Eiffelsont minés, prêts à explorer))

8月24日から25日にかけての夜、密かにこの情報を傍受した駐仏スウェーデン領事ノルドリング(Raoul Nordling(1881-1962))はドイツ軍の総司令部(le QG(quartier général)allemand)となっていたパリのリヴォリ通り(Rue de Rivoli)のホテル・ムーリス(Hôtel Meurice)へ急ぎ、赤十字と外交官の特権を利用してドイツ軍総司令官フォン・ショルティッツ将軍(le Général Dietrich von Choltitz(1894-1966), gouverneur militaire de Paris)に会い、その部屋に留まって、パリを全滅させぬよう必死で説得を続けました。何しろフォン・ショルティッツ将軍という人は代々軍人の家に生まれ、上からの命令には従順で決して背く事無く(Issu d'une longue lignée de militaires, il n'a jamais eu d'hésitation quand il fallait obéir aux ordres.)大戦中はウクライナのクリミア半島セバスト



ポリを陥落させた程の人物でしたから、思い止まらせるのも容易ではありませんでした。そんなフォン・ショルティッツ将軍もさすがにこのパリを破壊する事には躊躇を示し、ヒトラーからの問い合わせにも時間を稼ぎ、8月25日(現在の「パリ開放記念日」)にフランスのルクレール将軍(le Général Leclerc)率いる連合軍がパリに入る頃にはドイツ軍の撤退が始まり、遂にパリはそのままで開放されました。もしドイツ軍により予定通りパリが爆破されていたなら、.....私達が今日見る「パリ」は無かったのです。実に恐ろしいことです。

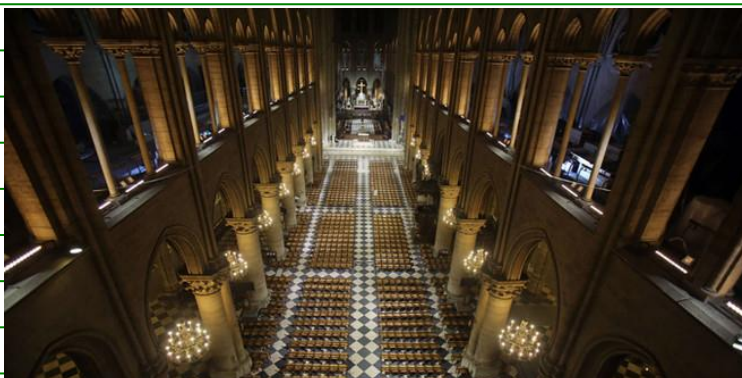


この事実は「パリは燃えているか」(Paris, brûle-t-il?)とのタイトルでルネ・クレマン監督(René Clément(1913-1996):「禁じられた遊び」(Jeux Interdits)(1952),「太陽がいっぱい」(Plein Soleil)(1959)等で知られる)により1966年に映画

化されました。そして今度はウォルカー・シュロンドルフ監督(Volker Schlöndorff)の手になる映画が「ディプロマシー」(La Diplomatie)のタイトルで出来上がり、唯今各地で上映中です。

*パリ・ノートル・ダム大聖堂一内部照明再考 (LA CATHEDRALE NOTRE-DAME DE PARIS - l'illumination intérieure a été repensée)

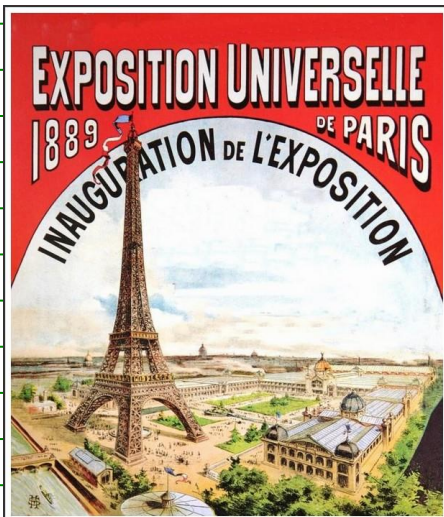
昨年建立850年を迎えたパリのノートル・ダム大聖堂は2013年度に1400万人の見学者を迎えましたが、記念行事の一つに聖堂内部照明の再考があり、此の度新たにLED(diodes électroluminescentes)による装置の設置が完了しました。特にバラ窓(les rosaces)は今迄に明るく、全く何処にあるのか判らないプロジェクターで照明、ステンドグラス自体が光っているかに見えます。1818年から立つ聖母子像(la Vierge à l'Enfant)は柔らかな光に浮か上がり、細かい部分までよく見えるようになりました。聖母が優しく微笑んでいるようです。



*パリ北駅は 150 歳 (LA GARE DU NORD A 150 ANS)

鉄道の発達に伴い 1864 年 4 月 19 日に落成したパリ北駅(La gare du Nord a été inaugurée le 19 avril 1864 pour faire face au développement des chemins de fer)は今年 150 歳。現在はロンドン行き“ユーロスター”、ブラッセル、アムステルダム等へ行く“タリス”、リール、ダンケルク方面行きTGV(Trains à grande vitesse)、ドゴール空港行きRER(Réseau express régional)等々1日に2100

本の列車に 70 万人の旅客が利用するヨーロッパ第一の重要な存在となっています。正面口 180mに亘り主な行く先の町を表わす 23 体の彫像が立っていて、落成当時が偲べれます。



*エッフェル塔は 125 歳 (LA TOUR EIFFEL A 125 ANS)

完成迄に 2 年 2 ヶ月と 5 日を要して 1889 年 3 月 31 日 13 時 30 分、1710 段の階段を 3 階へ上がってきたサディ・カルノ大統領(Sadi Carnot(1837-1894))を迎え、21 発の号砲が轟く中、設計者エッフェル(Gustave Eiffel(1832-1923))が 312mの頂上(現在はテレビのアンテナが設置されて 324m)に三色旗を掲げました。未だエッフェルの名前は付いてなく、同年 5 月 9 日に開催のパリ万国博覧会(l'Exposition universelle)の入場ゲートであり、シンボル・タワーでした。

一時は小デュマやモーパッサン等の芸術家団体が「巨大で醜い骸骨」(un squelette géant et disgracieux)と反対する声明を出したこともありましたが、建築材としての鉄の強度を示す科学的な例であるとしてエッフェル自身が解体を拒否、今ではパリ、フランスの象徴になりました。



*2014 年 5 月 1 日 Fête du Travail : 日の出 06 時 30・日の入 21 時 05、気温 : パリ 11°C・16°C曇天、ニース 13°C・20°C、ストラスブール 10°C・17°C 今号は無事だったパリの建物の話題を取り上げました。